



東南アジアの水田では、温室効果ガス（GHG）の一つであるメタン排出を削減するため、日本の「中干し」を応用した水位調整技術の普及が加速している。国際稲研究所（IRRI）、政府系国際協力機関、農業資材関



## タイでメタン削減技術普及

宮城大学特任教授 石井勇人氏



GHG削減に日本技術の簡易水位計を紹介する関係者（10月、タイ中部のスパンブリー県で）

# 日本の中干しを応用

連企業など官民が連携し、フィリピン、ベトナム、タイ、インドネシアで戦略的な技術指導を展開している。メタンは温室効果ガ

スの約14%を占め、農業分野では牛のげっぷや水田が主な排出源。日本では、収穫前に水を数週間抜いて乾かす「中干し」を延長し、メタン排出の抑制につながる。農研機構がこの技術をIRRIが推奨する節水技術である間断かん水（AWD）の応用技術として研究を進めてきた。

IRRIは、AWDの他、レーザー光を活用した農地の平準化、土壌分析と肥料の最適散布、わらの有効利用の技術を普及すること

で、収益向上と温暖化ガスの排出抑制を目指している。タイの農業・協同組合省とドイツの国際協力公社（GIZ）は、パ